



へき地診療所から病院に移った卒業後八年目に、県から「行政に入らないか」と打診がありました。「富山県では行政医師が大変不足している。県庁はへき地なのだ。県民の健康のために働いてほしい」とお誘いを受け、九年目から行政生活が始まりました。

行政入りの誘い

医療現場から公衆衛生に転身してから十年が過ぎました。現在、富山県庁医務課で医療政策を担当しています。わが家の子どもたちは、聴診器を持たず、毎日、ネクタイ、スーツ姿で通勤する私を、会社に通うサラリーマンと誤っているようです。

もり た ま す お 守田万寿夫 11期生・1988年卒



中学校へ出向いて防煙教育

健康づくりの仕掛け人に

の仕事は、健康づくりや疾病の予防、結核、O157などの感染症や食中毒、高齢者介護などの福祉対策と、幅広い課題を取り扱っていますが、その中でも、

環境整備も考え

保健所に勤務していた時、喫煙していない周囲の者がたばこの煙を吸ってしまう受動喫煙の影響、受動喫煙を防ぐための分煙対策、子どもたちの喫煙を防ぐ防煙対策、たばこをやめたい人への禁煙サポートの必要性を、私は、あらゆる機会をとらえて住民や関係者に訴えていました。

読者の皆さまの町ではいかがでしょうか？

ケープルテレビで健康教室が放映され、「テレビ見ましたよ」と声をかけられるようになったある日、公民館で「館内禁煙」の張り紙を目にしました。職員の方から、市内すべての公民館が館内禁煙となり灰皿が撤去されたこと、吸い殻の後始末がなくなり、部屋も臭わなくなり、たばこを吸わない方に大変好評であることなどを聞き、大きな手応えを感じました。

個々の住民に健康づくりを求めただけでなく、意識しなくても健康的に暮らせるような環境整備も公衆衛生のテーマです。健康教室で講師として地域の皆さんや子どもたちと接するほか、各種会議やイベントでは、

公衆衛生代表として地域の指導的立場の方とお会いします。私は、これらの機会を使って、皆さんと一緒に健康なまちづくりに取り組む、「健康づくりの仕掛け人」を目指しています。

へき地医療から、患者さんのみならず、地域全体を見ることを学んだ経験が、この仕事に大いに役立っています。

(次回予定は岡山県)

富山県厚生部医務課

【私の勤務地】富山県では、県立中央病院で臨床研修を受けた後、4カ所のへき地医療拠点病院、2カ所のへき地診療所に勤務するほか、行政医師として厚生センター（保健所）や県庁厚生部に勤務する卒業生もいる。

生徒への健康教育をきっかけに、先生や保護者の方が禁煙を決意されたり、職員室を完全禁煙とする学校も出てきました。受動喫煙の防止について盛り込まれた健康増進法が二〇〇三年に施行され、公共施設の全面禁煙化、店内禁煙とする飲食店、禁煙タクシー等の取り組みも増えています。